



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

2026

人文社会学部

FACULTY OF HUMANITIES AND
SOCIAL SCIENCES



地域と世界をつなぐ
知と創造力を沖縄から

国際法政学科

人間社会学科

琉球アジア文化学科

人文社会学部の教育研究上の目的

Check!
人文
社会学部
HP



人文社会系の専門的、学際的分野において真理を探究し、それを基に、個人の尊厳と基本的人権を尊重する平和・共生社会の形成者、社会全体の持続的発展に寄与する人材を育成します。

人文社会学部

国際法政学科…P3

人間社会学科…P5

琉球アジア文化学科…P7



人文社会学部長 本村 真

● 学部長メッセージ

地球上の多様な変化が今まで人類が経験したことのないスピードで起こっている今、これまでの経験の積み重ねで得られた知識は役に立たないと言う人もいます。その一方で、新たなウィルスの蔓延や戦争、多くの人権侵害が、今もなお世界中で繰り返されているという現実を皆さん方は目の当たりにしています。このような現代社会では、既存の知識に正解を求めるのではなく、課題解決に向けたその時々での最適解はどのように求めることができるのかを考え続け、納得感をもって行動する力が求められます。

人文社会学部では、皆さん方がその力を身につけるための土台として「平和・共生・沖縄理解」をキーワードとした様々な学びを、教職員一同となって提供します。自然・文化・歴史・社会のいずれにおいても多様性・独自性をもつ沖縄の地で、多くの出会いとともにその力をつけていきませんか。



● 学科・プログラム別募集人員

学科	プログラム	入学定員	一般選抜		特別選抜		私費外国人	3年次特別編入
			前期日程	後期日程	学校推薦型選抜II	帰国生徒		
国際法政学科	法学プログラム	80名	50名	10名	10名	若干名	若干名	4名
	政治・国際関係学プログラム				10名			
人間社会学科	哲学プログラム	80名	41名	18名	5名	若干名	若干名	4名
	心理学プログラム				8名			
	社会学プログラム				8名			
琉球アジア文化学科	歴史・民俗学プログラム	40名	25名	6名	9名	若干名	若干名	2名
	言語学プログラム							
	文学プログラム							

人文社会学部は、国際法政学科、人間社会学科、琉球アジア文化学科の3学科のもと、法学プログラム、政治・国際関係学プログラム、哲学プログラム、心理学プログラム、社会学プログラム、歴史・民俗学プログラム、言語学プログラム、文学プログラムの8プログラムで構成されています。

※国際法政学科、人間社会学科の学校推薦型選抜IIは、各プログラム別で募集を行います。

※大学入学共通テスト及び個別学力検査等の教科・科目等、より詳細な情報は、『入学者選抜要項』に記載がありますので、受験される方は必ずご確認ください。

※国際法政学科の3年次特別編入は、志望プログラム毎に行います。プログラム毎の目安人数は次のとおりです。

法学プログラム:2名、政治・国際関係学プログラム:2名



● 各プログラムへの配属について

各学科単位で募集を行い、1年次は合格した学科に所属します。1年次後学期を終了した時点で、本人の希望と1年次の成績等に基づき所属する学科の各プログラムへの配属を決定します。(全ての学生は、2年次前学期から各プログラムに配属されます。)

※右記人数は、受入人数の目安であり、各プログラムへの配属数は最終的に変動する場合があります。また、学生本人の成績やプログラムの受入人数等により、全学生の希望と配属とならない可能性があります。ただし、国際法政学科、人間社会学科において学校推薦型選抜IIで入学した学生は、合格したプログラムに配属となります。

学科	プログラム	受入人数
国際法政学科	法学プログラム	40名
	政治・国際関係学プログラム	40名
人間社会学科	哲学プログラム	20名
	心理学プログラム	30名
	社会学プログラム	30名
琉球アジア文化学科	歴史・民俗学プログラム	14名
	言語学プログラム	13名
	文学プログラム	13名

Knowledge and Skills 知識・技能 大学における人文社会分野の学びの土台となる高校での学習内容に関する基礎的な力を有する人	Thinking, Judgement, Expressive Power 思考力・判断力・表現力 答えが一つに定まらない問題に自ら解を見出していく基礎的な力を有する人	Independent and Cooperative 主体性・協同性 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度・スキルを有する人	Sense of Purpose 目的意識 人文社会学部の学問分野に対する強い関心と学びの意欲を有する人
--	--	--	--



● 教育カリキュラムの構成

		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業(進学・就職)
共通教育科目		基盤系(外国語科目(第一外国語及び第二外国語)、データリテラシー科目、アカデミックスキル科目、キャリア系科目・ダイバーシティ科目、健康運動系科目)				
		教養系(人文社会系科目、自然科学系科目、琉大特色・地域創生科目、グローバル系科目)				
		平和共生・沖縄理解科目群 ※科目指定				
専門教育科目	学部共通基盤科目	基礎演習 → 基礎演習Ⅱ → 基礎演習Ⅲ				
	学部共通科目	平和共生・沖縄理解基盤科目		キャリア関係科目		
	国際法政学科 法学プログラム 政治・国際関係学プログラム	学科共通科目	学科基盤科目 → 学科発展科目			
	国際法政学科 法学プログラム 政治・国際関係学プログラム	プログラム専門科目		基盤科目 → 発展科目		
	人間社会学科 哲学プログラム 心理学プログラム 社会学プログラム	学科共通科目	学科基盤科目 → 学科発展科目			
	人間社会学科 哲学プログラム 心理学プログラム 社会学プログラム	プログラム専門科目	コア基盤科目 → コア発展科目 → 発展科目			
琉球アジア文化学科 歴史民俗学プログラム 文学プログラム 言語学プログラム	学科共通科目	学科基盤科目 → 学科発展科目				
琉球アジア文化学科 歴史民俗学プログラム 文学プログラム 言語学プログラム	プログラム専門科目	コア基盤科目 → コア発展科目 → 発展科目				

“ 共通教育科目の履修

1～2年次を中心に、全学共通の共通教育科目を履修することによって、文系・理系の知にバランスよく触れ、外国語科目の履修によって国際性を身につけます。人文社会学部の共通教育における特徴は、「平和共生・沖縄理解」に関係する科目を指定し、6単位以上を修得することです。これにより、平和共生・沖縄理解に関する文系・理系の知を修得します。

“ 学部共通科目の履修

学部共通科目のうち「学部共通基盤科目」は、「基礎演習Ⅰ」が1年次前期の配当で、大学で学ぶための基礎的な技能の演習(導入)を実施します。「基礎演習Ⅱ」では、口頭発表・討論・レポート作成を中心とした基礎的な演習(展開)を実施します。次に「基礎演習Ⅲ」を履修し特定課題を中心とした口頭発表・討論・レポート作成の演習(発展)を実施します。

“ 学科共通科目の履修

学科共通科目は、学科基盤科目と学科発展科目とからなります。これらの科目を順次履修することによって、学科の共通の基盤となる知を身につけ、さらにその知を発展させます。

“ プログラム専門科目の履修

プログラム専門科目は「プログラムコア基盤科目」、「プログラムコア発展科目」及び「プログラム発展科目」である(※国際法政学科は「プログラム基盤科目」と「プログラム発展科目」)。これらの科目を順次履修することによって、学部共通科目や学科共通科目で培った知を基に、演習形式におけるアクティブ・ラーニングによって、専門的な学びを学年が進むとともに深め、卒業論文を完成させます。(法学プログラムは選択)。



学科概要

01 学科の教育理念・目的

国際法政学科は、法学・政治学・国際関係学に関する専門的知識を学び、豊かな学際的知を形成しながら、多様な社会との共生のあり方や持続的発展のための政策提言・発信力、及び平和共生社会を構築できる実践力を持つ人材の輩出を目指しています。そのため、当学科は、法学プログラムと政治・国際関係学プログラムから構成され、法学・政治学・国際関係学をバランスよく学べるカリキュラムを設けています。さらに、弁護士など法曹職を目指す学生に向けて法曹コースを設置し、法科大学院と連携して多くの科目を開講しています。

02 求める学生像

法学・政治学・国際関係学などを中心とする社会科学分野の学問を土台として、現代社会における諸問題を総合的かつ体系的にとらえて、問題の本質を見極め、その解決策などを研究していきます。そのため、当学科は、

→ 人間社会や社会科学への深い関心

→ 柔軟かつ総合的な思考力

→ 主体的に学ぶ意欲を持った人材

を求めています。

03 育成する人材像

法学・政治学・国際関係学の学びを通して、リーガル・マインドを持ちつつ政治や行政、国際関係に精通する人材を養成し、地方・国家公務員、マスコミ、法曹、国際公務員、企業の国際職など高度専門職につける人材を輩出することを目指します。

留学について

琉球大学と提携している世界中の各大学へと交換留学することが可能です。特に、政治・国際関係学プログラムでは、海外大学に交換留学しても琉球大学を4年間で卒業できる仕組みを設け、交換留学を積極的に推し進めています。今までこの制度を利用して、これまで、ネバダ州立大学(米国)、イースト・ミシガン大学(米国)、ハワイ大学(米国)、シェフィールド大学(英国)、ソウル市立大学(韓国)、高麗大学(韓国)、延世大学(韓国)、福建師範大学(中国)、国立台湾大学(台湾)、中山大学(台湾)などに留学しています。また、学科独自の授業として、短期の海外研修(ハワイ、ソウル、台湾)科目も展開しています。



海外研修(韓国ソウル)



海外研修(米国ハワイ)

主要科目

憲法・民法・刑法・商法・刑事手続と人権・民事手続法・行政法・社会保障法・労働法・刑事政策・LS進学等特修クラス・政治過程論・行政学・地方自治論・公共政策学・国際政治学・日本政治外交史・国際関係史・国際社会学・比較政治学・東アジア国際関係論・政治国際関係学概論

想定する進路

※過去の実績に基づき抜粋

国家・地方公務員等

沖縄県庁、法務省(総合職)、外務省(総合職)、防衛省、内閣府沖縄総合事務局、国税庁、福岡出入国在留管理局那覇支局、沖縄県警、那覇地方裁判所、琉球大学(事務)、那覇市役所等各市町村役場など

マスコミ

NHK、共同通信、琉球新報、沖縄タイムス、琉球放送、沖縄テレビ、琉球朝日放送、朝日新聞、西日本新聞など

民間企業

琉球銀行、沖縄銀行、沖縄振興開発金融公庫、大同火災海上保険、沖縄電力、JAL、JTA、ANA、サンエー、日本郵便、JTB沖縄、沖縄ゼロックス、ザ・ナハテラス、大同生命保険株式会社、株式会社ビーンズラボなど

大学院進学

琉球大学、東京大学、京都大学、一橋大学、大阪大学、東北大学、筑波大学、早稲田大学、同志社大学、ハワイ大学など



1年次研修(県議会)



海外研修(グアム)

森川 恭剛先生のメッセージ



刑法 森川 恭剛 教授

問題意識を持ち、幅広い教養を

学校で人権は守られていますか？やむなくブラック校則や教員の横柄な態度を受け入れてきた人もいるでしょう。

学校の人権侵害を肌で感じて法学を学びたいと考えた人は、憲法学を専攻して子どもの人権論を研究できます。

それでも学校を変えようとするには政治学、教育学、社会学等の幅広い知識が必要になります。こうして勉強を積み重ねるうちに他の法律問題に興味が出てくるかもしれません。それともよいことです。問題意識を持ち、幅広い教養を身につけ、どうぞ法学を探索してください。

さて琉大の法学プログラムは小規模の教育単位ですが、法科大学院の先生方の協力を得て多くの法律科目を開講しています。そして3年次以降は毎週1回の法学演習で特定の法分野を深く掘り下げて学べるようになっていきます。

これまで研究者や法曹、国家・地方公務員のほか県内・県外企業などに幅広く人材を輩出してきました。

教員一覧

- 徳田 博人 教授
行政法
- 森川 恭剛 教授
刑法
- 高田 清恵 教授
社会保障法
- 戸谷 義治 教授
労働法
- 三浦 毅 准教授
民事訴訟法
- 李 妍淑 准教授
民法
- 一藁 幸 講師
民法

ゼミでの主な学習テーマ

土地の利用をめぐる争い／不法行為に基づく損害賠償／人格権にかかわる紛争／民事裁判における手続保障／退職をめぐる問題／職場におけるいじめ／戦後沖縄の刑事法制／辺野古裁判と地方自治／行政処分の職権取消と撤回／医療保障と医療制度改革／生活保護をめぐる問題



授業風景



台湾研修

阿部 小涼先生のメッセージ



国際社会学、社会運動論、比較社会文化論

阿部 小涼 教授

解放のほうへ、政治学を

戦争、虐殺、武力とカネによる支配のニュースがはびこっている。そのような今日の時代に、市民という資格で世界に現れようとする皆さんが大学で学ぶべきこと間違いなし、な政治学は、最近どんな感じなのだろうか。

たとえば個人の自由を重視して分けて前を確保する権力闘争が前提のこれまでの理論から脱して、そもそも人間は生まれたときから他者に依存しなければ生存できない相互的な存在であることを重視して、ケア(思いやり、労り、配慮、手当て)を軸に再考しようとする動きが始まっている。ケアは強い個人主義の理想ではなく、関係、弱さ、二項対立では整理出来ない「あいだ」のところで機能している。弱さのほうでデフォルトならば、強いものに守ってもらわなければなぜダメなのか。

安全保障の理論は、国家が独占する主権のパワーゲームから、人権のほうへ、さらに人間以外も含めた生存の全体性を志向するよう修正を迫られている。

力の支配から解放のほうへ、政治学を鍛え直す21世紀の作業工程に、皆さんもぜひ知恵を絞りに来ませんか。

教員一覧

- 金 成浩 教授
国際関係学、ロシアを含む東アジア国際関係研究
- 阿部 小涼 教授
国際社会学、社会運動論、比較社会文化論
- 二宮 元 教授
比較政治学、福祉国家論
- 山本 章子 准教授
国際政治学
- 前田 貴洋 准教授
行政学、地方自治論、公共政策学
- 新任教員 2名

主な卒業論文のテーマ

- 台湾有事と日本の政策 — 軍事と外交の視点から —
- 公的部門における女性管理職の現状と分析 — 沖縄県庁を対象として —
- 沖縄県における本土復帰以降少子化問題以前の人口政策
- 責任の観点から見た日本の生活保護制度
- 台湾と日本における同性婚と政治
- 日台航空路問題 — 大平外相談話と宮澤発言 —



新歓ビーチ・パーティー



授業風景



学科概要

01 学科の教育理念・目的

学科共通

現代は、社会や自然の急激な変化や価値観の多様化の中で、人間をとりまく諸問題がいつそう複雑になっています。こうしたなかで、経済や科学技術、環境問題などに関する地球規模での人類の連帯の必要性和ともに、地域・民族・文化・思想・伝統の多様性の認識が重要なテーマとなってきています。そして人間の心のあり方や人間らしい生き方、人間集団としての社会のあり方そのものが大きく問われています。人間社会学科では、人間を中心に据えながら、人類が直面する問題を社会・文化・地域・環境といった多角的な視点から探求し、幅広い知識と寛容の精神を持って時代の創造者になるような人材の育成を目指しています。

哲学プログラム

哲学プログラムでは、生と死、人間・世界、知、環境、生命、科学技術等について、文献読解や討論を通じて原理的・本質的な探究を行います。またそれと同時に、哲学・倫理学での知見を基にして、現実社会での喫緊する課題についても探求します。

心理学プログラム

心理学プログラムでは、心理学の基礎的分野から応用的分野まで幅広くカリキュラムが提供されており、包括的に心理学を学ぶことができます。また実験などを体験的に学ぶことで、科学的な方法論やデータ分析、さらには報告の仕方まで、心理学のみならず社会で活用できる能力も身につけることができます。

社会学プログラム

社会学プログラムでは、社会福祉学・平和共生社会の2つのコースが連携しながら、人間と社会・地域との関係や問題を探っています。少人数教育のメリットを活かし、社会調査実習、福祉施設や相談機関での実習(社会福祉士資格関連)、ドキュメンタリー制作実習などの実習科目に力を入れているのが特徴です。地域の平和に関する課題や多文化共生など、沖縄ならではのテーマを十分に学習できる点も、社会学プログラムの魅力のひとつです。

02 求める学生像

思想・心・社会に強い関心を持ち、多面的な観点から物事を考察し自分なりの意見をまとめることができ、市民社会の発展や生活問題の解決にも貢献できる人を求めています。

03 育成する人材像

人間科学に関する専門的な知と幅広い学際的知を基に、個人の尊厳を保ち、誰もが自由・公平に、また安心・安全に生きられる社会を形成できる人材を養成します。



留学について

琉球大学と協定を提携している世界中の各大学へと留学することが可能で、この制度を利用して、これまで(旧・法文学部時代)に、デュッセルドルフ大学、ハワイ大学ヒロ校、コンケン大学(タイ)、ラオス国立大学、延世大学などで学んだ学生がいます。また、文部科学省と民間企業とで運営する「トビタテ!留学JAPAN」を利用した学生もいます。

久高 将晃先生のメッセージ

Message



倫理学、現代ドイツ哲学
久高 将晃 教授

哲学とはどのような学問でしょうか。
過去の哲学者の思想を学ぶことと思われるかもしれませんが、ドイツの哲学者カントはこう述べています。
「われわれは哲学を学ぶことはできない、哲学することを学ぼうのみである」。
彼によれば、哲学とは過去の哲学者の思想を知ることではありません。
では、「哲学すること」とは何でしょうか。
われわれは、いろいろなこと(例えば、道徳的であるべきことや自由であることなど)を当り前のこととして日々を過ごしていますが、ときに当り前と思われることについて本当にそうなのだろうかとその根拠を問うこともあるでしょう。
みずから立てた問いを根拠から考える、これが哲学することなのです。
あなたも哲学プログラムで、哲学することを学んでみませんか。

哲学すること

教員一覧

- 寺石 悦章 教授
哲学、人間学、宗教思想、東洋思想
- 久高 将晃 教授
倫理学、現代ドイツ哲学
- 吉満 昭宏 准教授
現代英米哲学、非古典論理学

想定する進路

大学院進学、公務(県市町村の役所の職員、警察官)、民間企業(金融、製造、情報通信、サービスなど)

合同ゼミの風景



OVERVIEW

哲学プログラム

橋本 光平先生のメッセージ

データに基づき
人間心理を探求する

人間に関する興味は尽きません。私自身もそのような興味から人文諸学を学び始めました。心理学はそのような人間を探求しようとする人文諸学の1つであると考えます。人間を探求したいという同じ興味を持つ学問のなかで心理学の特徴はなんでしょうか。それは、観察、調査、実験といった方法でデータを取得し、統計を使って得られたデータを分析し、科学論文としてその結果を発信することです。

このような方法を通して、人間の心理や行動の法則に接近しようとするのが心理学です。

本プログラムでは、体系的に心理学を学ぶことを通して単に心理学の知識を身につけるだけではなく、人間に接近する際の心理学的態度や方法自身につけることができます。

そしてこれらの態度や方法の修練は、心理専門職だけではなく、多様な業界で求められる論理的・分析的思考や問題解決力、発信力の涵養につながるはず。

みなさんとともに、心理学することを楽しみにしています。



臨床心理学 行動分析学
橋本 光平 講師

教員一覧

- 泊 真児 教授
社会心理学、心理学教育、青少年の健全育成
- 田中 寛二 教授
臨床心理学、加害者臨床、カウンセリング
- 高良 美樹 准教授
社会心理学、アイデンティティ
- 草野 智洋 准教授
臨床心理学、ロコセラピー、離婚後親子支援
- 井上 紗奈 准教授
認知心理学
- 橋本 光平 講師
臨床心理学、行動分析学
- 小泉 誠 講師
臨床心理学

想定する進路

大学院進学、国家公務員（一般職、家庭裁判所調査官、法務教官、法務技官など）、地方公務員（一般職、心理職等）、民間企業（金融、製造、情報通信、サービス、大学事務など）、心理専門職

【指定大学院修了後】

教育相談員、病院心理士、スクールカウンセラー等

取得可能な資格

認定心理士

受験資格が得られるもの

公認心理師
(卒業後に、実務経験、または、指定大学院進学が必要)



心理学実験の風景

地域から
考える視点を学ぶ

32年間新聞記者として沖縄戦や沖縄戦後史、介護、福祉、教育、ジェンダー、基地問題を生活の視点から報道してきました。通底するテーマは地域社会の課題の解決です。現代の沖縄社会を規定するのは沖縄戦、それに続く戦後であると考え、研究テーマとして取り組んでいます。

2024年秋からは課題を問う場所を大学に変えて、地域の直面する課題解決の方法を学生たちと共に考えます。生きた社会を理解するには地域の方々の声を聴くこと、人々と多くの言葉を交わすことです。沖縄という場所から一緒に日本を世界を見据えてともに考えていきましょう。

謝花 直美先生のメッセージ



メディア社会研究
謝花 直美 准教授



農学部上原研究園での取材

教員一覧

- 野入 直美 教授
比較社会学(移動、境界、マイノリティ、共生)
- 謝花 直美 准教授
メディア社会研究(新聞と社会、沖縄報道、沖縄戦・戦後史報道)
- 渡久山 清美 講師
ジャーナリズム研究(沖縄関連報道の調査・研究)
- 本村 真 教授
社会福祉学(人を支援するための有効な方法)
- 田中 将太 准教授
社会福祉学(NPOによる福祉サービスと中間支援)
- 波名城 翔 准教授
島嶼福祉、精神障がい者への支援、自殺予防対策
- 新任教員
社会福祉学

想定する進路

大学院進学、沖縄県やその他の官公庁(一般行政職や福祉職等)、沖縄県・市町村社会福祉協議会、病院、施設、相談機関、県内外マスコミ、民間企業(金融、運輸、流通、情報通信など)

受験資格が得られるもの

社会福祉士



卒業研究発表会



学科概要

01 学科の教育理念・目的

学科共通

本学科では、琉球・沖縄、日本、朝鮮半島、中国・台湾を、歴史、民俗、言語、文学を通じて多角的に、総合的に学びます。これらの地域は歴史的にも、現在も相互に影響を及ぼしあっています。地域研究を中心としつつ、他地域とのつながりも研究しています。

教育・研究を通して、資料(史料)・情報を収集する能力を身につけ、根拠ある主張を論理的に展開できる人材を育成したいと思っています。沖縄・琉球をはじめとする地域社会や文化を理解し、その継承発展に貢献したいと考えています。

歴史・民俗学プログラム

琉球・沖縄や日本、中国・台湾、朝鮮半島を中心とした地域の歴史・民俗学に関する研究をします。専門知識を深めていくなかで、地域社会と国際的な場で琉球・沖縄及び日本・アジアを積極的に発信する人材を育成することを目指しています。

言語学プログラム

琉球・沖縄や日本・中国・台湾・朝鮮半島を中心とした地域の言語学に関する研究をします。文化の基盤となる言葉の理解を通して、異なる文化背景を持つ人々とコミュニケーションする能力を身につけます。

文学プログラム

琉球・沖縄や日本・中国・台湾・朝鮮半島を中心とした地域の文学に関する研究をします。文化や文学を深く読み解くことを通して、異なる文化背景を持つ人々と平和的に共生していく能力の育成を目指しています。

02 求める学生像

本学科では、次のような人に入学し、学んで欲しいと思っています。

- 琉球・沖縄、日本、中国・台湾、朝鮮半島の言語、文学、文化、歴史、民俗などに強い関心と学習意欲を持っている人
- こうした地域の違いと類似性に目を向けつつ、主体的・積極的に研究できる人
- 社会・文化の発信や継承・発展に寄与することができる人

03 育成する人材像

本学科は、琉球・沖縄、日本、中国・台湾、朝鮮半島の歴史・民俗、言語、文学に関わる学問を教授します。そして教育・研究を通して以下の人材を育成することを目指しています。

- 資料(史料)・情報を収集する能力を身につけた人材
- 資料(史料)・情報の整理・分析を通して、根拠にもとづいた主張を展開できる人材
- 成果をまとめ、論理的で説得力のある説明ができる人材
- 他者との意見交換を通して、多様な見解や価値観を受け入れ、柔軟に修正・改善する姿勢を持つ人材

想定する進路

大学院進学、公務(県市町村の役所の職員、警察官)、民間企業(金融、製造、情報通信、サービスなど)、高校教員

取得可能な資格・免許

免許: 中学校教諭一種免許(国語)、高等学校教諭一種免許(国語)
資格: 博物館学芸員

留学について

琉球大学と協定を提携している世界中の各大学へと交換留学することが可能です。この制度を利用して、これまで、ソウル市立大学(韓国)、延辺大学(中国)、国立台湾大学などに留学しています。また、台湾の協定校で研修を行う「海外文化研修(中国語圏)」の講義をとることもできます。

麻生 伸一先生のメッセージ



琉球史 麻生 伸一 教授



史料調査の様子

琉球列島に点在する島々にはそれぞれ独自の文化や歴史があり、これらの文化や歴史が積み重なり今の沖縄がつくられてきました。
わたしが学んでいる琉球史は、沖縄島や久米島、伊江島や宮古地方、八重山地方といった現在の沖縄県の島々のほか、鹿児島県南部の奄美諸島も視野に入れ、政治や外交、社会、文化、経済などさまざまな角度から「過去」を見つめ、古文書や文献をじっくり読み込みながら「今」を考える学問です。
琉球史を学ぶことで、アジアや世界のなかの琉球の独自性を追求しながら、琉球列島内の多様性にも気づくこともできるはずですよ。

琉球列島に
点在する島には

Message



沖縄県立博物館・美術館で史料調査

教員一覧

- 麻生 伸一 教授 琉球史
- 中村 春菜 准教授 中琉関係史
- 大濱 郁子 准教授 沖縄近現代史
- 高橋 そよ 准教授 琉球民俗学

井伊 菜穂子先生のメッセージ

「覚える文法」から
「考える文法」へ

もし日本語を勉強している方に助詞「は」「が」の違いを聞かれたら、どのように答えますか？

私たちの身近にあって、自由に使いこなしているように思える日本語ですが意味や使い方を体系だてて説明しようとするとき意外と難しいものです。

これは研究の世界でも同様で、未だ解明されていない謎が日本語にはたくさんあります。このような謎に光を当て、日本語の特徴を明らかにしようとする分野が「日本語学」です。

高校までで学んだ品詞分類や活用表などの文法の多くは、教科書の内容を「覚える」ものだったのに対し、大学の日本語学は「考える」ものに変わります。

日本語にどのような特徴があり、なぜそのような特徴をもつのか、地域によってどのように異なるのか等、自分の頭で考えたり、それを周囲の人たちと議論する時間は非常に面白いものです。

身近な日本語の疑問について、一緒に考えてみませんか。



日本語学
井伊 菜穂子 准教授

教員一覧

- 當山 奈那 准教授
琉球語学
- 金城 ひろみ 准教授
中国語学・中国語教育学
- 井伊 菜穂子 准教授
日本語学



前城 淳子先生のメッセージ

歌を通して

琉球・沖縄を学ぶ

つらいとき、または楽しいときにふと口ずさみたくなる歌はありませんか。一人で、又はその場にいる人と一緒に歌うことで、つらい気持ちを癒したり楽しい気分を分かち合ったり。琉球列島にもさまざまな歌が伝承されています。

日々の生活の中で生じる個々の思いを吐露する歌。共同作業や宴などが行われる場で仲間との関係を深めたり場を盛り上げたりする歌。神と人が交流する場で人々の願いを表現する歌。

琉球列島に伝承されたこれらの歌を文学の面から研究することで、人々が何に関心を寄せていたかを知ることが出来ます。

日本文学はもちろん、琉球語学や琉球民俗学といった関連する学問分野と連携しながら学ぶ場がここにはあります。

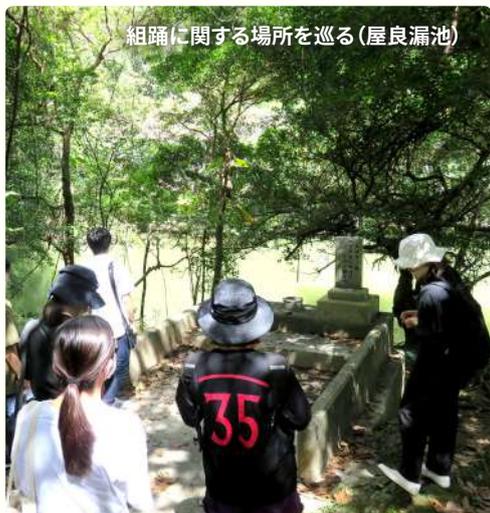


琉球文学
前城 淳子 教授



教員一覧

- 新城 郁夫 教授
日本文学・沖縄文学
- 呉 世宗 教授
朝鮮文学・在日朝鮮人文学
- 前城 淳子 教授
琉球文学
- 新任教員
中国古典文学



2025年度 年間スケジュール

Annual Schedule

- 4/1 ● 学年・前学期開始 (15週)
- 4/2 → 4/8 ● 仮登録期間
- 4/3 → 4/8 ● 全学部の新入生
オリエンテーション
サークル紹介
※人文社会学部の
新入生オリエンテーション
個人の時間割作成
- 4/4 ● 入学式
- 4/11 ● 前学期授業開始
- 5/24 ● 体育祭
- 7/20 ● オープンキャンパス
- 8/1 → 8/7 ● 前学期試験期間
- 8/13 → 9/30 ● 夏季休業
- 9/20・21 ● 琉大祭
- 9/24 → 9/26 ● 後学期仮登録
- 10/1 ● 後学期開始 (15週)
- 10/1 ● 後学期授業開始
- 12/3 ● 学校推薦型選抜等
- 12/25 → 1/4 ● 冬季休業
- 1/17 → 18 ● 大学入学共通テスト
- 2/2 → 2/6 ● 後学期試験期間
- 2/11 → 3/31 ● 春季休業
- 2/25・26 ● 一般選抜(前期)
- 3/12 ● 一般選抜(後期)
- 3/24 ● 卒業式

※教員から学生生活全般に対する助言や、科目履修等に関する説明があり、在校生からも様々なアドバイスがもらえます。

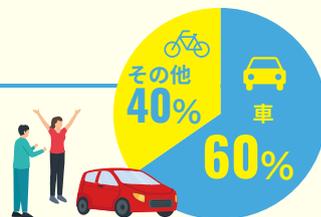


学年暦



● 大学への学生の交通手段

人文社会学部では、約6割の学生が車で通学しています。片道2km以上の通学距離がある場合、駐車場利用のための入構許可証が発行できます。



入学年の授業料等 (2025年度)

合計 ¥817,800	入学期	¥282,000
	授業料 (年額)	¥535,800

学生をサポートする各種制度があります

各種制度		詳細はこちらから
授業料・入学期免除等	給付奨学金(日本学生支援機構)+授業料免除(大学)が受けられる修学支援新制度のほか、大学独自の緊急支援制度などもあります。	授業料・入学期免除等(琉大HP)
奨学金	日本学生支援機構が実施する奨学金制度があります。	日本学生支援機構HP
学生寮	琉大キャンパスの宜野湾口(北口)近くに学生寮(千原寮)があります。2022年に改修工事が完了しました。	学生寮について(琉大HP)

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、琉球大学でも遠隔授業が実施されるようになりました。それとともに琉球大学では数理データサイエンス教育(数理的思考力とデータ分析・活用能力を養う教育)の強化を方針に掲げています。今後はより一層パソコンやインターネットを活用した授業・学習の機会が増えていくことでしょう。以下では、これに関連したトピックを紹介します。

● ネット環境について

授業期間中、本学部(文系講義棟)では授業で使用されていない時間帯については遠隔授業等で利用できるよう教室を開放しています。各教室では、学生なら無料でWi-Fiの使用が可能です。



● 遠隔授業について

遠隔授業の実施方法としては主にMicrosoft TeamsやZoom、WebClass(e-Learning)を用いたものがあります。授業ごとに実施方法が異なりますので授業を履修する際に確認しましょう。

※Microsoft TeamsのほかMicrosoft Officeのソフト(Word、Excel、PowerPoint等)及びWebClassは在学中、無償で利用できます。

● ノートPC必携化

2022年度入学生からノートパソコン等が必携となりました。ノートパソコン購入を検討される方は、こちらから大学が推奨するPCのスペックを確認できますので、参考にしてください。

※条件を満たすノートパソコン等を既にお持ちの方は、新たに購入する必要はありません。
※推奨するスペックを満たすパソコンは琉球大学生生活協同組合でも販売・サポートしています。



ノートパソコン
推奨スペック

Interviews 在学生インタビュー

※あくまでも一例であり、学年や生活スタイルによって異なります。

国際法政学科Aさん

男性／卒業生／出身：県内離島／住居：アパート
家族からの援助：月2万円／奨学金：日本学生支援機構給付型奨学金：月66,700円／アルバイト：月5万円程度／住居費：月58,000円／食費：月2万円程度／ガソリン代：7,000円程度／その他：交際費など3万円程度

— 講義

講義に関しては、前年度の先輩方よりコロナの影響が少なかったため、比較的対面授業多めの時期に入学できたのは良かったと思います。自分が興味のある分野を中心に学ぶことができ、講義自体は非常に楽しかったです。加えて、自分の学部や学科以外の授業を履修するのもオススメです。もちろん難易度は上がるかもしれませんが、自分の知見が確実に広がること間違いなしです。

— サークル活動

サークルはほとんど真面目にやっておらず、ほぼ幽霊部員でした。新入生のみなさんにはぜひサークルに入って沢山交友関係を構築することをオススメします。自分はその分インターンシップやアイデアソンなどに多く参加していました。大学内外に仲間をつくることができたので、勉強や就活をしながらいろんな価値観に触れてみたい!という方には向いていると思います。

— アルバイト

アルバイトは塾講師をしています。塾講師の一番のメリットとしては、シフトが入る時間帯は大学の講義が終わった時間帯が主なので、融通が効きやすいところです。また、私のところは土日授業などはなく平日が主体だったので、まとまったお休みがとれるところは良かったですね。ですが、塾によって時給も前後するので、掛け持ちしている方も多かったです。社会経験として様々なバイトに挑戦すると良いかと思います。

人間社会学科Bさん

女性／4年次／出身：県内本島／住居：実家
奨学金：なし／家族からの援助：なし／アルバイト：月約5万円／住居費：なし／食費：月約2万円／ガソリン代：6~9千円／その他：2万円

— 講義

1年生と2年生の頃はコロナウイルスの影響でオンライン授業が多かったのですが、今ではほとんどの講義が対面で授業が行われています。私は、4年生になったときにゼミ以外の授業をとらなくて良いように、なるべく講義は1学期につき20単位ずつとっています。また、成績に関しては私生活とのバランスを考え、無理せず各学期GPA3.0以上を目指しています。自分の専門分野についての授業も面白いですが、他の学部や学科の授業もとることができる場合があるので、専門分野以外でも興味のあることを学ぶことができ、知見を広げられます。

— サークル活動

大学の軽音サークルに所属しています。私の所属しているサークルでは、ライブやイベントが頻繁に行われています。部員の人数が100人を超える大きなサークルなので、中には自分と違う学部や学年、または違う大学の人も所属しており、普段関わる機会が少ないような人たちとも交流することができます。イベントに参加しているとたくさんの人と仲良くなることができ、私は普段そこで仲良くなった友人と時間を過ごすことが多いです。私にとって、大学生活の中で1番良かったことはサークルに入ったことだと感じています。

— アルバイト

バイトは現在、塾講師とライブハウススタッフをしています。塾講師は大学1年生の頃から勤め、4年目になります。塾では、他のバイトの人も大学生が多いので、同年代の人と仲良くなることができました。ライブハウスのバイトでは、私は音楽と照明が好きなので、楽しみながら働いています。今まで、単発も含め、英検の試験監督、ホテルの清掃員、ギフトスタッフ、ショーのスタッフ等、様々なバイトを経験しました。収入を得ることももちろん大事ですが、私は自分のやりたいことや好きなことかどうかを大切にしたいバイトを選んでいきます。

琉球アジア文化学科Cさん

男性／4年次／出身：県外／住居：アパート
奨学金：なし／家族からの援助：月8万円／アルバイト：月2.5万円／住居費：月4万円／食費月2万円／ガソリン代：5千円／その他：月2万円程度

— 講義

入学当初は、履修登録の複雑さに驚きましたが、慣れると意外と簡単だと感じました。1年次では主に共通教育科目を履修し、2・3年次からは本格的に専門の授業を履修しています。また、2年次からは学芸員資格を取得するための授業も履修しています。もともと琉球史に興味があり、この学科に入ったため、授業はどれもとても楽しいです。実際に史料に触れることができる授業や、フィールドワーク、聞き取り調査などを通じて、貴重な経験を積むことができました。少しでも興味がある授業や、面白そうだと感じた授業は、必ず学びにつながるので、積極的に履修することをお勧めします。

— サークル活動

アカペラサークルに所属しています。1年次では複数のサークルを掛け持ちしていました。サークルでは学部・学年関係なく様々な人と関わることができ、とても楽しく活動しています。2年次からは部長としてサークル運営を担い、部内ライブや主催ライブの企画を行うなど、とても良い経験ができました。また、コロナが落ち着いてからは県外のアカペライベントにも積極的に参加し、県外の大学生とも交流を深めています。サークルに入らなければ経験できなかったことがたくさんあり、サークルに入って良かったと感じています。

— アルバイト

大学内で、琉球方言に関わるアルバイトをしています。自分の時間割に合わせてシフトを組むことができるうえ、学内でのアルバイトのため、授業と授業の間の時間を活用して無理なく働くことができます。さらに、専門的な知識を身につけることができ、勉強にもなっています。これ以外にも、時々先生や知人の紹介で、県外からの修学旅行生に平和ガイドをするアルバイトもしています。

人文社会学部事務室は、文系総合研究棟1階にあります。

「人文社会学部」に関連する最新情報は、琉球大学人文社会学部のホームページ
<https://www.hsu-ryukyuu.ac.jp/>で確認ください。

空港から

モノレール(ゆいレール)で

- 那覇空港駅 → てだこ浦西駅(約40分) → 294番てだこ琉大快速線(約25分)
- 那覇空港駅 → てだこ浦西駅(約40分) → 297番キャンパスバス(約25分)

高速バスで(琉大入口下車)

- 111番線、117番線(琉球バス・沖縄バス・那覇バス・東陽バス)
- 113番線、123番線、152番線(琉球バス)
- 国内線旅客ターミナル前 → 那覇バスターミナル → 沖縄自動車道 → 琉大入口(約40~50分)
→ 徒歩(北口まで2分)

※ 交通渋滞のため、バスが定刻どおり運行していない場合があります。
 ※ 時間に余裕を持ってご来学くださいますよう、お願いします。

那覇から

路線バスで

- 94番線(那覇バス) 首里駅前 → 琉大付属小学校 → 琉大北口駐車場
- 97番線(那覇バス) 那覇バスターミナル → 琉大東口 → 琉大北口駐車場
- 98番線(琉球バス) 那覇バスターミナル → 長田 → 琉大北口

モノレール(ゆいレール)で

- 首里駅 → てだこ浦西駅(約10分) → 294番てだこ琉大快速線(約20分)



人文社会学部周辺案内図

国際法政学科
 人間社会学科
 琉球アジア文化学科



琉球大学
 UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

「人文社会学部」に関する問合せ先

人文社会学部 学務係
 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

TEL (098) 895-8188 FAX (098) 895-8187